土佐清水の地質学的歴史（1）

海の深みから

現在の土佐清水が立つ土地は約3800万年前にテクトニックプレートが動いた結果形成され始めました。海洋プレートが大陸プレートの下に降りていきましたが、これは約2100万年以上にかけて徐々に海洋プレートからの堆積物が緩み、大陸プレートに蓄積していったプロセスです。新しく生じた地質体、いわゆる付加体は、そのプレートの先端にゆっくり形成されました。付加体が大きくなるにつれて、いくつかの部分は徐々に海から出現して新しい土地を形成しました。

浅瀬を通って

付加体が大きくなるにつれて、浅い海が大陸プレートの端に沿って出現しました。約1700万年前にこれらの沿岸海域に砂と泥が蓄積し始め、徐々に新しい地層へと固まりました。これらの地層は総称して三崎層群と呼ばれるもので、アジア本土の端の土地が崩れ海に流れ込み日本列島ができた頃に形成されました。三崎層群は、この大きな激動の痕跡を含んでおり、地質学者にとって大きな関心源となっています。この地層は、日本列島がまだ現在の位置に向かって動いていた時代に島々の周りの環境がどのようなものであったかについて研究する機会を提供します。